

The Japan Automobile Maintenance Colleges Association



JAMCA ニュース

No.100記念号

2019年1月1日

発行
協会事務局
編集事務局

全国自動車大学校・整備専門学校協会
〒160-0015 東京都新宿区大塚町31
ヴィップ新宿御苑 ☎03-3356-7066
〒125-0002 東京都葛飾区西亀有3-28-3
☎03-3601-2535 FAX 03-3601-2988
ホームページアドレス <http://www.jamca.jp/>

100号を祝して



関東工業自動車大学校 理事長 中川 裕之
全国自動車大学校・整備専門学校協会 会長

新年おめでとうございます。
JAMCA ニュースが100号を迎え、発行に携わってこられた皆様には、さらなる感激をもって新年を迎えられたことと思います。

改めて、そのご努力に、敬意を表するしだいでございます。

さて、我々を取り巻く環境は、日進月歩どころではなく、秒単位の変化としてとらえなければ時代に取り残されるような状況にあります。

自動運転はまだ先のこと、燃料電池の持続時間が問題だ、という考え方、明るい未来に対してわずかなハードルを、大きな障害として捉える考え方が、この時期、最も危険と言わざるを得ません。

自動運転車の今後は、携帯電話（スマホ）の発展プロセスと同じなのです。

固定電話から所謂ガラケーまでに要した期間と比較すると、ガラケーからスマホはあっという間の出来事でした。さらには、スマホは、データベースとして、AIを活用するツールとして、高級カメラとしてのスペックが重要視され、電話としての機能は、スマホの一部となってしまいました。

したがって、自動運転、電気が先の話ではありません。それどころか、今までの自動車としての概念がこれからの電気・自動運転車にとっては数ある機能の一部になっても決しておかしくはありません。

つまり、携帯電話の端末が車になり、主役の座が脅かされる極めて危険な状況なのです。

このような環境下において、我々JAMCA はどのように、変化に対応し、社会的責任をはたしてゆけばよいのでしょうか。

まず、整備士は車を修理するという概念を捨てなければなりません。

自動運転により、交通事故・死亡者数も著しく減少するはずですが、その時、一つの交通事故、一人の死亡事故の原因究明の重要性が今日よりもはるかに大きくなります。

自動運転が壊れたから直す、というよりも、自動運転が壊れないように管理されることを社会は求めるはずですが。

当然に、これからの自動車整備士は、国民の生命と安全を守るために、自動運転を管理することに国家資格者としての義務と責任を負うこととなります。

自動車整備士は、修理をするのではなく、国民の生命と安全を守る自動運転の管理者なのですから。

昨年、国土交通省平井課長とJAMCA ニュースの対談をさせていただいたおかげで、これからの一級自動車整備士については、自動運転・電気自動車への対応、今まで求められていることとは質が違ってくることをご指導いただきました。

一級自動車整備士の公共的使命が確立したことと思います。

次の課題は、その公共的使命が社会に対してどうアピールしてゆくかであり、

名は体を表すという諺どおり、自

動車整備士という名称では社会の認識とズレが生じます。

一例をあげれば、オートモービルシステムエンジニア（ASE）という名称にすることも視野に入れる必要があると思います。

自動運転により、社会システムそのものにも革命がおこり、新しいスマートシティが生まれるのです。そのスマートシティの心臓部は、自動運転です。

これからの自動車整備士は、スマートシティの心臓部＝自動運転のシステムエンジニアとしての役割を果たす、今後の時代の最先端を行くものとなります。

この100号が期せずして、JAMCAの転換点となり、輝かしい未来に一步を踏み出せることに感慨深いものがあります。

おわりになりましたが、輝かしい未来に一步を踏み出せるのは、国土交通省の的確なご指導のおかげであることに衷心より感謝を申し上げ、新年の挨拶とさせていただきます。

CONTENTS

2面	JAMCA ニュース 100号記念号を祝う
3面・4面・5面	JAMCA ニュース 100号記念対談 <自動車の自動化・電動化 車社会の変化に対して>
6面・7面	JAMCA ニュースの創刊から100号までを振り返って
8面	協会トピックス・編集後記